

山形県教員「指標」

『研修 キャリアアップシート』の活用について

～「学び続ける教師」を目指して～

平成30年2月
山形県教育センター

『研修 キャリアアップシート』のねらい

山形県教員「指標」『研修 キャリアアップシート』は、教員一人一人が「指標」の各項目内容を道しるべとし、主体的・計画的に研修を実施していくことへの支援をねらいとしています。この活用により、教員が自己の研修履歴を把握すること、今後の研修に対し課題をより明確にして臨むことが期待されます。

教員としての資質・能力は、実践と省察の繰り返しによって高められるものですが、様々な校外研修や校内研修の機会を積極的に活用し、さらには同僚との日常の情報交換、意見交換を加えることで、視野が広がり、思考が深まっていくと考えられます。その実践・省察と研修等をつなぐツールとして『研修 キャリアアップシート』を活用し、求められる資質・能力を生涯にわたって高めていきましょう。

山形県教員「指標」について

山形県教育委員会は、教育公務員特例法第22条の3に基づき、本県教員が高度専門職としての職責、経験及び適性に応じて身に付ける資質を明確化した「指標」を定めました。

「指標」は、本県教員が主体的に資質向上を図る際、教員としてのキャリアステージ全体を見通し、自らの職責、経験、適性に応じて、効果的・継続的な研修を行うための目安であり、また県教育委員会が研修計画を策定する際に踏まえるべきものとします。なお、「指標」は、人事評価に用いるものではありません。

「指標」の構成

■ キャリアステージ（5段階）を横軸とし、各観点を縦軸として、キャリアステージ及び観点到した項目内容を記述しています。

■ 各キャリアステージにおいて○印を付けた重点項目は、各教員が自らの資質向上を図るため研修を受講する際に、目安として活用できるようにするものです。（その重点の時期以前に、研修及び教員としての経験等により身に付けておくことは、より望ましいと考えます。）

■ 「始発期」の重点項目は、「探究型学習の趣旨理解」、「郷土愛の育成」、「ICT機器の活用」など、本県教育の充実に向けて、教職の早い段階から身に付けてほしい資質として示しています。特に養護教諭や栄養教諭には、学校において、より専門性の高い教員としてその能力を発揮してほしいという考え方から、「始発期」により多くの重点項目を位置付けています。

■ 県教育委員会は、指標のキャリアステージ及び観点等を踏まえ、各教員が資質向上を図るための研修計画を策定します。

氏 名

教諭用A【教職の実践に関する資質・能力】		※○印は、その段階における重点項目						「指標」 教諭用 A		
領 域	能 力	項 目	着任時の姿	始発期	成長期	充実期	組織運営期	自己評価	重点項目(個人)	研 修 履 歴
生徒指導力	児童生徒理解力・教育相談力	1 児童生徒に対する深い教育愛をもっている。	○1							
		2 児童生徒と積極的にコミュニケーションを図るとともに、公平かつ受容的・共感的に関わることができる。		○						
		3 一人一人の児童生徒のよさや可能性を把握し、学校生活や学習に対する意欲や興味関心を引き出すことができる。		○						
		4 いじめや不登校などの教育課題について理解し、その予防・解決に向けた適切な指導・支援を行うことができる。		○						
		5 児童生徒一人一人の心身の特性や状況、生活環境などを多面的に捉え、組織的な指導・支援を行うことができる。			○					
		6 児童生徒の夢や目標を理解し、社会での自立を目指して、将来の生き方を考えさせる学習を進めることができる。				○				
		7 児童生徒の指導について、教職員の組織を活用するとともに、校外の関係機関と連携して課題解決にあたることができる。					○			
	集団指導力・学級経営力	8 児童生徒の実態に応じたよりよい人間関係づくりや集団づくりについて理解することができる。	○2							
		9 児童生徒が互いのよさを認め合いながら安心・安全に過ごせる温かい学級経営に取り組むことができる。		○						
		10 学校の教育活動全体の道德教育を通して、生命や人権を尊重する心、思いやりの心と規範意識等を育むことができる。			○					
		11 次世代に生命をつなぐことの大切さを考えさせるなど、生命尊重を基盤とした性といのちの教育を行うことができる。			○					
		12 学校教育目標の実現に向け教職員や家庭・地域と連携しながら、開かれた学級経営を進めることができる。			○					
		13 幼児期から高校までの成長を見通したキャリア発達の視点に立った学級・学年経営を行うことができる。					○			
担任力（学級担任とともに教科担任としての資質・能力も含む）	基礎的授業力・カリキュラムマネジメント	14 学習指導要領を理解し、授業を行うことができる。	○3							
		15 学習指導要領と教材の価値、児童生徒の実態を踏まえ、年間指導計画や学習指導案を作成することができる。		○						
		16 教科等の内容に関する専門的知識と技能を有し、実際の指導に活かすことができる。		○						
		17 学習内容の習熟の程度などを踏まえて、個に応じた指導を行うことができる。		○						
		18 学習指導要領や第6次山形県教育振興計画の趣旨を踏まえ、幼・小・中・高を見通したカリキュラムづくりを推進することができる。			○					
	指導の積極的改善	19 学校の特色や教育課題を踏まえたカリキュラムのPDCAサイクルを具体化し、実践することができる。				○				
		20 学習評価の意義と方法について理解している。	○4							
		21 評価規準を用いて児童生徒の学習状況を把握し、自らの指導方法の工夫・改善を行うことができる。		○						
		22 授業分析や評価を踏まえた改善の方向性について、校内にフィードバックすることができる。			○					
		23 教科における自校の教育課題を分析・考察し、組織的に学力の定着・向上に取り組むことができる。				○				
	教師としての専門性の構築・専門教科の指導力強化	24 専門書等を活用したり、校外での研修等に参加したりすることで、専門的知識・技能を習得することができる。		○						
		25 探究型学習の趣旨を理解し、児童生徒が主体的・協働的に課題を解決していく力を育成することができる。		○						
		26 郷土を理解し、郷土に誇りをもち、郷土を大切に思う心を育む体験活動等を進めることができる。		○						
		27 研究会や研修に積極的に参加し、自らの資質・能力を高めるとともに、校内に情報発信を行うことができる。			○					
		28 同僚に指導方法等の改善に向けた適切な助言を行うことができる。				○				
ICT活用力・情報モラル	ICT活用力・情報モラル	29 英語教育や道德教育、人権教育、環境教育、国際理解教育など、今日的な教育の動向を把握し学校全体に広めることができる。					○			
		30 情報モラルを正しく理解し、ICT機器の適切な活用ができる。	○5							
		31 パソコンやタブレット、デジタル教科書などのICT機器を、授業で柔軟に活用することができる。		○						
		32 ICT機器の積極的な活用を通して、児童生徒の情報活用能力と情報モラルを育成することができる。			○					
		33 ICT機器の活用、情報モラル教育を同僚とともに推進し、学校のICT環境の整備を進めることができる。			○					
		34 情報モラル等に関する情報収集を行い、SNS等の有益性及び危険性を理解し、的確な対策を行うことができる。				○				
	特別支援教育力	35 インクルーシブ教育システムの考え方を理解している。	○6							
		36 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を行うことができる。		○						
		37 児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえた適切な指導・支援を行うことができる。			○					
		38 個別の指導計画や個別の教育支援計画の意義を理解して作成し、活用することができる。			○					
		39 共生社会の実現に向け、専門知識やコーディネート力をもとに、教育的支援を行うことができる。				○				
		40 地域の関係機関の役割を理解し、連携しながら、学校・家庭・地域での支援を効果的につなぐことができる。					○			

* 教諭のキャリアステージ（5段階）
・着任時の姿（初任時）・始発期※（初任時～3年目）・成長期※（4年目～10年目）・充実期※（11年目～20年目）・組織運営期※（21年目～退職）
※キャリアステージごとに示した経験年数は、各教員が自ら資質向上を目指す際のあくまでも「目安」であり、研修を受ける際等に参考とするものである。

山形県教員「指標」『研修 キャリアアップシート』

		教諭用B【教職の素養に関する資質・能力】							※○印は、その段階における重点項目				「指標」 教諭用 B		
領 域	能 力	項 目		着任時の姿	始発期	成長期	充実期	組織運営期	自己評価	重点項目(個人)	研 修 履 歴				
総合的な人間力	年齢にふさわしい社会力	1	言葉遣いやマナーなどの社会人としての常識を身に付け、円滑な人間関係をつくることができる。	○1											
		2	悩みや困ったことが生じた場合等には、管理職や同僚に相談することができる。		○										
		3	互いに相談し合える雰囲気を率先してつくることができる。			○									
		4	教職員間のコミュニケーションを活性化し、相互理解を促進することができる。			○									
	豊かな人間性・教養	5	明るく、心身ともに健康で、教養と教育に関する専門性を身に付けている。	○2											
		6	日本及び外国の文化・歴史、環境問題、平和問題等についての広い知識をもっている。		○										
		7	仕事と生活の調和を図り、精神的なゆとりをもって仕事に取り組むことができる。			○									
		8	地域の一員として地域活動に参加することなどを通じて、地域や他業種の方々の視点を理解し、多面的な見方・考え方ができる。			○									
	学び続ける姿勢	9	学び続ける教師の重要性について理解している。	○3											
		10	常に自らの学びを省察し、課題を発見し改善に努めることができる。		○										
		11	管理職や同僚等の助言を謙虚に受け止め自己を省察し、成長につなげることができる。			○									
		12	教師として自己革新への意欲をもち続け、教育の動向等を踏まえつつ、たゆまぬ自己研鑽を行うことができる。				○								
教育公務員としての自覚	13	教育公務員にふさわしい倫理観と規範意識を備え、教育に対する強い使命感・責任感をもっている。	○4												
	14	高い倫理性のもとに、教育公務員として法令及び服務規律を遵守し、規範意識をもって職務に専念することができる。		○											
	15	高い倫理性と厳正な服務規律のもとに自らの使命・任務を遂行し、同僚への助言も行うことができる。				○									
チームマネジメント能力	経営参画意識	16	山形県の教員として、郷土を愛する心をもち、人とのつながりを大切にして、地域社会においてよりよい学校・園を築こうとしている。	○5											
		17	同僚と協働することの意義を理解し、問題解決に向けてチームで対応することができる。		○										
		18	組織の一員として自己の役割を自覚し、学校・園の運営に貢献することができる。			○									
		19	学校・園を取り巻く状況を把握・分析し、組織の課題を発見することができる。				○								
		20	柔軟な発想と企画力、的確な判断力をもち、全体最適の視点から学校・園の職務を推進することができる。					○							
		21	学校・園の運営について、機会を自らつくり出して管理職に意見具申することができる。					○							
		22	組織運営や教科経営に積極的にに関わり、学校・園の教育目標の実現に向けて工夫改善を行うことができる。					○							
	連絡調整力	23	組織全体について、内外の環境要因を広く見渡しながらその特徴をつかみ、強みを活かした教育活動を展開することができる。					○							
		24	保護者や地域等との連携の必要性を理解し、円滑かつ迅速に対応することができる。			○									
		25	学校・園の共通認識のもと、外部の専門機関と連携を図ることができる。				○								
		26	保護者、地域、関係機関等、様々な立場の人と協力し、広く情報収集したり、適切に情報発信したりすることができる。					○							
		27	外部との調整の実務担当者として、学校・園の課題に応じて人的・物的資源を活用することができる。					○							
	チーム運営力	28	互いの課題や悩みに気付き、支え合う環境をつくるとともに、経験の浅い教職員を積極的に支援することができる。				○								
		29	会議や研修が効率的に行われるように、参加者の意見や積極的な取り組みを引き出すことができる。				○								
		30	同僚の特性や強みを見取り、それらを活かしたよりよい組織づくりに貢献することができる。				○								
		31	外部専門家等も含めた「チーム学校」づくりに参画することができる。					○							
	後輩への指導・助言力	32	同僚の教育実践における課題について、学び合う意識をもって助言することができる。				○								
		33	自らの指導及び援助等の技術を公開し、職員のロールモデルであることを自覚し、後進の育成に当たることができる。					○							
危機管理対応能力	学校・園の安全管理	34	危機管理の重要性を理解し、危機意識をもって行動しようとしている。	○6											
		35	危険発生時の対処要領に則り、幼児児童生徒の安全を第一に考えて、事件・事故、災害への的確な対応ができる。		○										
		36	安全教育の計画の策定に主体的に参画し、学校・園の安全に関する実践を推進することができる。				○								
		37	危険発生時の対処要領の作成に参画し、事件・事故、災害への的確な対応ができる。					○							
	学校・園の情報管理	38	パソコンの使用規程などを遵守し、個人情報の保護などの安全管理に努めながら資料を作成したり活用したりすることができる。		○										
		39	パソコンの使用規程などを整備し、安全管理を徹底することができる。				○								
40		最新のＩＣＴ技術の動向や実態を把握して、安全管理の重要性の啓発を推進することができる。				○									

* 教諭のキャリアステージ（5段階）
・着任時の姿（初任時） ・始発期※（初任時～3年目） ・成長期※（4年目～10年目） ・充実期※（11年目～20年目） ・組織運営期※（21年目～退職）
※キャリアステージごとに示した経験年数は、各教員が自ら資質向上を目指す際のあくまでも「目安」であり、研修を受ける際等に参考とするものである。

『研修 キャリアアップシート』の使い方(例)

- 山形県教員「指標」の項目を読み、達成できていると思う項目については『研修 キャリアアップシート』の「自己評価」欄に○をつけます。
- 自身の目標や課題について考え、その年の研修計画について検討します。
- 実践を積み重ねるとともに積極的に研修を受け、資質・能力の向上を図りましょう。
- 校外で研修を受けるときは、自分が受けている研修が山形県教員「指標」のどの項目に該当する研修なのかを確認しましょう。そして、該当する項目の「研修履歴」欄に日付等を記録します。
校内での研修では、山形県教員「指標」を参考にしながら、先生方の課題について話し合いながら計画を立てていくことも考えられます。
- 研修の内容や振り返り等を『研修のあしあと』に書き込みましょう。『研修のあしあと』の様式は山形県教育センターのホームページよりダウンロードできます。また、研修で使用した資料や振り返りなどがある場合は、そちらと一緒にファイリングしておきましょう。
- 実践や研修を重ねることで、資質・能力が身に付いたと思う項目には、その都度○をつけていきます。

【研修 キャリアアップシート 記入例】

項 目		着任時の姿	発達期	成長期	充実期	組織運営期	自己評価	重点項目(個人)	研 修 履 歴		
1	児童生徒に対する深い教育愛をもっている。	○1					○				
2	児童生徒と積極的にコミュニケーションを図るとともに、公平かつ受容的・共感的に関わることができる。		○				○	2018	'18 10/2		
3	一人一人の児童生徒のよさや可能性を把握し、学校生活や学習に対する意欲や興味関心を引き出すことができる。		○								

「○」は、その時期の重点項目です。

達成できたと思う項目に○

自身のその年の重点項目に年度を記入

研修した年月日等を記録

【研修のあしあと 記入例】

項目番号 教諭 A 24 25	研修名
期日 平成 30 年 7 月 17 日	探究型学習推進講座 C
研修内容 ①探究型学習の考え方 ②探究型学習の授業イメージ ③探究型学習の授業づくり	
振り返り等	

受講後の振り返り等を記入

※山形県教員「指標」『研修 キャリアアップシート』及び『研修のあしあと』の様式は、山形県教育センターWebページからダウンロードすることができます。

山形県教育センターWebページ (<http://www.yamagata-c.ed.jp>)